

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

JR東「鉄道持つIT企業に」

乗務員 追い込む制度撤回を

4月26〜28日の日経新聞でJR東日本について「JR東日本、鉄道持つIT企業に」「人でかからぬ運行追求」「非鉄道」売上高の5割へ」といった見出しで特集が組まれました。そこではスイカを軸に「広域デジタル経済圏」をつくり、金融や不動産業などで利益を上げる構想が語られています。

一方、紙面でも「ローカル線の廃線など鉄道事業のリストラを海外投資家から強く迫られる可能性」が指摘されています。

JR東、鉄道持つIT企業に

コロナ禍がJR東日本の事業モデルを脅かす

鉄道輸送量(石炭)

ビッグBiz

Suica・えきねっと・データ統合へ

金融参入、競争力高める

JR東が目指す将来のサービス像

- ① 定時運行の時間や曜日に関わりなく
- ② 乗客の利用促進や乗客の平準化
- ③ 商業施設やホテルの利用者に割引提供
- ④ 鉄道と「非鉄道」の相互サービスを機軸

2023/4/26 付 日経新聞
26〜28日、JR東日本が特集されている

「20%は別の仕事を」

そして、記事には22年1月から業務時間の2割を普段とは違う仕事にあてる「20%ルール」を導入したと書かれています。

実際、乗務員に駅業務も車いす対応もやらせ、運転士と車掌業務の込み運用も開始されました。7月1日からは統括センター化と千葉、蘇我、佐倉運輸区の(営業)統括センターとの兼務発令が強行されようとしています。

乗務員は日々神経をすり減らしながら列車の運行と安全を守っています。鉄道の最も中心をなす職種です。その乗務員の仕事をこんな片手間扱いにするなど絶対に許せません。

統括センター・兼務化反対の声を

また、ジョブローテーションによる異動が繰り返され、退職や休職に追い込まれる仲間も急増しています。乗務員をないがしろにし、追い込んでいく会社のやり方には怒りしかありません。こんな制度は廃止以外にありません。

職場の怒りや不安が、「こんな制度はいらない!」「廃止を!」というの声と行動になることを、会社は何よりおそれています。攻撃を打ち破る力は現場からの声と行動、労働組合の力にあります。統括センター化・兼務化、ジョブローテーション撤回の声をあげよう。